

1. 大学の国際化について思うこと

潮木守一（桜美林大学招聘教授、名古屋大学名誉教授、当研究所評議員）

最近ではグローバリゼーションという言葉がよく利用されるが、使う人によって意味がすこしずつずれているように思える。それだけ広い範囲に影響を与えているからであろう。いずれにせよ大量輸送手段が発達し、国外にでることがそれほど困難でなくなれば、海外留学経験者が多くなる。より多くの人々が海外体験を持つようになることは、これは結構なことである。筆者が20歳台だった頃、大卒の初任給が1万円、日本・ヨーロッパ間の往復運賃が50万円、しかも1ドル360円時代には、海外旅行など夢のまた夢だった。海外に行きたいと思ったら、海外の留学生受け入れ機関の選抜試験を受けて、旅費・滞在費を保障してもらうしかなかった。この試験に応募するには、語学能力検定試験を受け、研究計画を外国語で書き、外国語だけの口述試験を受け、それにパスするしかなかった。当然希望者は殺到し、競争が厳しかった。

ところがいつの間にか1ドル360円時代は過去のものとなり、200円になったかと思うと、100円を割り込み、一時は80円以下にまでなった。海外旅行は夢ではなくなり、だれでも気軽に行けるものとなった。それでも1960年時代には、増え始めた日本人旅行者を相手にお土産屋が「高いよ、高いよ、10ヶ月月賦だよ」と声高に叫びながら、お土産を売っていた。だれか旅行者がいたずらに間違った台詞を教え込んだのであろう。

学界でも不確かな情報源から得た知識をもとに、「あその国ではこうだ」といった俗説が横行していた。はなはだしい場合には、電車に乗り合わせた乗客から聞いた話にすぎないことが結構あった。それを我々は「ツーリスト比較」とけなし、このような言説が支配する段階を、できる限り早く克服する必要があると考えた。しかしそうはいつでもこちら自身が海外に出かける機会がなく、「ツーリスト比較」に異論を立てる根拠もない状態が続いた。

その後、OECDをはじめとする諸々の国際機関が登場し、多少なりとも信頼できる体系的な情報が得られるようになり、これをもととする比較研

究が可能となった。しかし初期の頃は、どう考えてもおかしいというデータが、これら国際機関の報告書に載ったりしていた。

近年、若い世代の研究者が多く留学する事例が増え、それも3年、4年、あるいはそれ以上も長期に滞在し、場合によっては海外の大学に勤めるケースが拡大した。教えながら、その国の内部を観察するという、ひと頃ではとうてい実現できない事例が増え、海外情報もより確実なものとなり始めた。

ただ現代は激動の時代である。アメリカの雇用統計一つで世界が大きく変動する時代となった。まさに「グローバル化」の結果である。だから中央銀行の利子率、雇用状況、輸出入収支、もろもろの指標が相互作用を起こして、どこでどのような事態が起こるのか、見通しが困難になり始めた。つまり「あその国はこうだ」と行った単純化でできないばかりでなく、昨日起こったことが次の日にはすでに変わっているというように、多くの情報の寿命が短くなった。

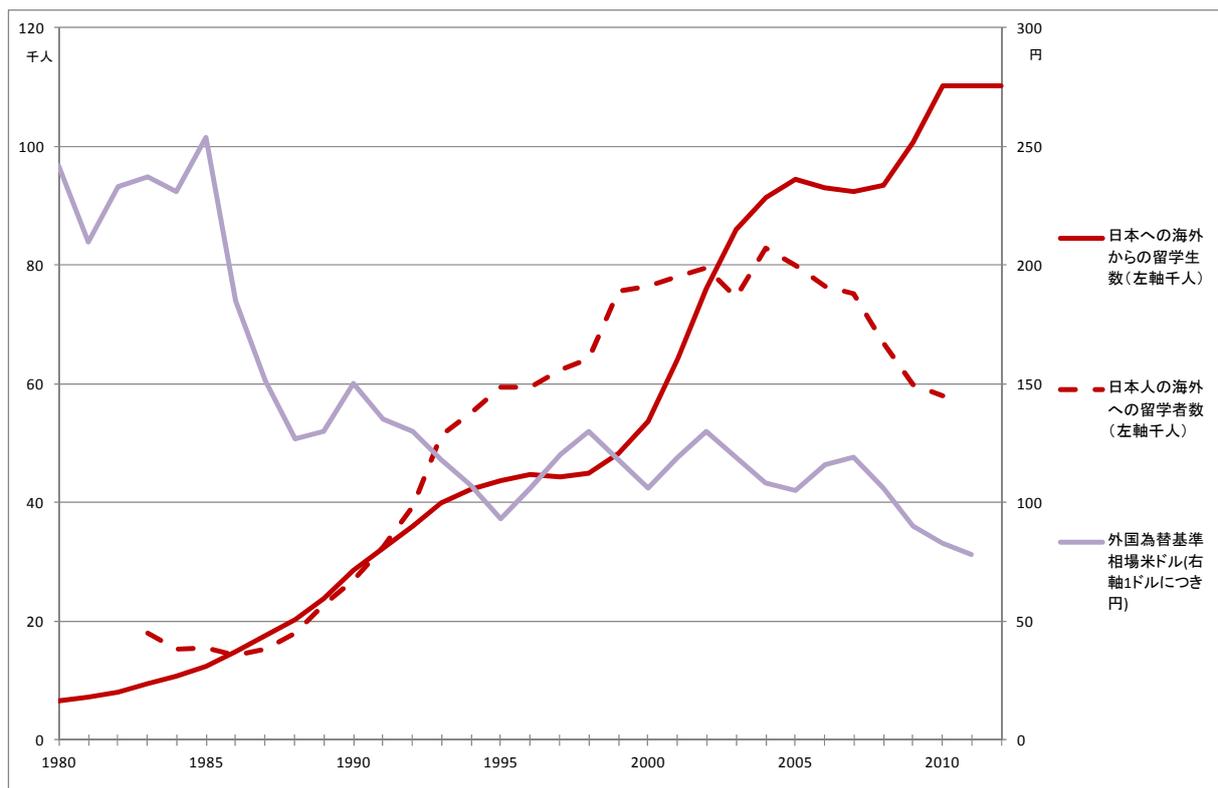
ひと頃、「秋入学」が話題となった。秋入学も結構だろうが、日本語の講義しかなかったら、秋に入学してもさっそく困るだろう。日本の大学の「グローバル化」を図るとすれば、入学時期よりも、まず英語での講義を増やさなければどうにもならない。たいして英語がうまいわけでもない筆者が、多少なりとも、英語での講義、プレゼンテーション、ディスカッションに参加できるようになったきっかけは、アメリカで多くの教授が、お国訛り丸出しの英語で講義をしている現場を見た時だった。日本の自宅の近くに JICA の研修所があり、そこに頼まれ、1973年頃から英語で講義をするようになったことがあった。そこでは英語で話し、説明する苦勞もさることながら、さまざまな地域から来ている研修生の英語を聞き取るのに苦勞した。こうした経験から得た結論は、世界中で氏素性の正しい英語を話している人間はほんの一握り、後はみなお国訛りの英語を話しているという事実であった。

これまで比較的長く滞在したのは、ドイツとアメリカであったが、どちらでも現地語に慣れるベストな方法は、老人と知り合いになり、彼等と世間話をする事だった。相手は老人だから時間を持て余している、話し相手を欲しがっている、老人だから話のテンポがゆっくりしている、いろいろな経験を話したがっている。ドイツで知り合いになった老人は、いつでも酔っぱらっていて、こちらの顔をみると、「アキドウ」といった。それが「こんばんわ」の意味だと思っているらしい。そ

こで何回も「こんばんは」を教えたが、とうとう最後まで覚えなかった。

アメリカで知り合いになった老人は、今では潰れてしまった鉄道会社の社員だった人だった。若い頃機関車の運転に憧れ、運転手になったが、何時頃からか自動車に押され、鉄道会社が閉鎖になった物語を繰り返し聞かされた。これは語学の勉強になったが、老人相手のボランティアにもなったことだろう。

参考：日本への留学生数、海外への留学者数、外国為替基準相場米ドル（1980～2012）



資料：日本への海外からの留学生数・・・「日本の長期統計」、「学校基本調査」より一般財団法人日本開発構想研究所作成
日本人の海外への留学者数・・・ユネスコ統計局、OECD、IIE の統計による、日本人の海外留学者数の推移（平成 25 年 2 月文部科学省集計）

外国為替基準相場米ドル・・・「日本の長期統計」「日本統計年鑑」より一般財団法人日本開発構想研究所作成